



2022.6.6

国際バスルーム展2022 概要

健やかな暮らしの公式：テクノロジーと心に響くもの

バスルームにと特化したこの隔年のイベントは、国際レベルのベンチマークとなる展示会です。今回は持続可能性を重視したテクノロジーと、リラックスできる情感を表現した多数の新製品で、これまでになく大きくなっています。6月7日から12日までロー、フィエラミラノ国際見本市会場、ホール22-24で開催されます。

●全体の傾向と概要

インターナショナルバスルームエキシビションは、成長を続けるダイナミックなイベントです。現在、第8回目になり、バスルーム家具に携わる人々にとっての主要なイベントとして認められています。展示面積は 17,140 m²以上に広がり、186の出展社が、家具やアクセサリからシャワー用パーティション、衛生陶器からラジエーター、水栓金具やアクセサリ、浴槽まで、最高レベルの国際的な製品を展示します。展示されている新製品は、この特定のスペースは、デザイン面を豊かに表現しながら、ますます技術面でグリーン志向になりつつあります。

バスルーム家具会社は、サステナビリティ（持続可能性）に対する、最新の市場の要求にこたえるエネルギー効率の高い製品を考案するために、長年にわたって研究と革新に投資してきました。節水と高品質で耐久性のある品質認証を保証し、環境への負荷が少なくリサイクル可能で循環性にある材料の使用に焦点を当てるようになりました。テクノロジーの使用はますます広まる一方で、製品の中に目立たないように納まっています。

製品は幅広いカスタマイズが可能で、リラックスしたウェルネス体験をユーザーに提供しながら、高レベルの持続可能性を達成できるようになっています。スマートデバイスとデジタルメカニズムにより、必要に応じて、簡単なタッチで部屋を変えることができます。水温や照明、入室者に合わせた音楽などを自動調整する起動・音声認識システムや、スマートフォンの操作で湯を満たせるバスタブなど、理想的な水位を確保するシステムが実現しました。温度、そしてあらゆる種類の要求に対応するミラーがあります（シャワーを自動的にオンにすることから、自分を見るための適切な種類の照明まで）。温水と冷水の適切な混合を完璧に制御する水栓とアクセサリがあります。消費量を最大50%削減できる流水調節機能が装備されています。他のシステムでは、継続的な監視と節水アラームにより、水の消費量の管理が容易になり、ユーザーはこの天然資源をより慎重に管理する必要性をより意識するようになります。最新世代のサニタリーウェアでも、見た目とデザインは、賢明な節水のための革新的な技術システムと組み合わせられています。トイレは厳密に縁がなく、4.5リットルまたは3リットルの水を使用する水をほとんど使用しないように設計されています。

●主な出展社

技術革新が環境の幸福と配慮と結びついた例は、KOHLER/コーラー（ホール22 | H15 H19）からのコレクションです。アメリカのブランドは、サローネで新しい「Anthem（アンテム）」シャワー制御システムを発表しています。これらは最大6つのシャワー出口、シャワーヘッド、スプレーを制御できるため、さまざまなタイプのジェット、温度、および流量をカスタマイズして組み合わせることができます。中央のシャワーヘッドからの柔らかい37° Cのレインフォールジェットと、ハンドシャワーによる強力な40° のマッサージをお望みですか？ Anthemシステムはこれを提供できます。

さらに、このシステムはKOHLER Konnect（コーラー・コネクト）というスマートフォンアプリに接続できます。このアプリを使用すると、たとえば、固定温度または最高温度の設定、タイムスケールの監視、水の消費量など、シャワー機能を制御できます。システムは、「アマゾンアレクサ」、「Googleアシスタント」、「アップルホームキット」「NUMI2.0」にリンクできます。同じ未来技術を誇るNumi2.0は、市場で最もインテリジェントで先進的なトイレであり、水の効率を保証し、個別の掃除と乾燥機能、ヒーター付きシートはリモートまたは音声で統合された高品質のスピーカーと照明を動かして制御できます。

イノベーションはタイプにも適用できます。Abaco from Ceadesign/アバコフロムシアデザイン（ホール22 | E21 E23）は、同社の創設者兼アートディレクターであるNatalino Malasorti/ナタリーノ・マラソルティによって設計され、特許を取得しています。家の中のどんなスペースにも適応します。Abacoは、すべての洗濯機能、ビデ、流水機能を統合しています。完全にステンレス鋼でできており、衛生的で抗菌性があり、リサイクル可能で耐久性のある素材であり、持続可能な製品です。

デザインに関して言えば、最新のトレンドは、リビングスペースの延長として、バスルームが広がっています。リビングと寝室と同じように、統一感のある素材や形の洗面キャビネットや収納、アクセサリーが注目されています。

その例の1つは、Andrea Federici/アンドレア・フェデリーチがFalper /ファルパー（ホール22 | D19 D21）のために設計したバトラー壁掛けキャビネットコレクションです。これは、棚、内部引き出し、ハンガーレールで構成できる柱のシステムです。物や製品を保管するように設計され、アルミニウム、ガラス、無垢材、またはラッカー仕上げが自慢のバトラーは、その本質的でクリーンなデザイン、瞑想的なレイアウト、職人技が特徴です。

一般的に、バスルームの家具はすべてミニマリストであり、暮らしに不可欠であり、多くの場合、曲線、有機、プラスチックの線と形を想定しており、色、素材、質感を最大限に発揮します。それらは明らかに、スキル、伝統、および場所の感覚のブレンドによって達成され、バスルーム家具の外観に作用します。

その一例が、セバスチャン・ヘルクナーによるDuravit /デュラビットの「Zencha（ゼンチャ）」（ホール22 | E16 E18）です。これは、日本のお茶の儀式と伝統的な職人技に触発されたバスルームコレクションで、有機的な形のカウンター上の洗面器とバスタブをモジュー

ル式の幾何学的で落ち着いた家具と組み合わせています。置き型バスタブの四角いバージョンは、日本の四角い温泉を彷彿とさせます。

Ceramica Cielo/チェラミカ・チエロ (ホール22 | A21 B24) も、伝統的な職人技と革新を融合させたデザイン道を追求してきました。バウハウスのしなやかでありながら合理的な形状と、堅固な湾曲した木材とウィーンのわらでの家具の生産の本質に触発された新しい「**Marcel(マルセル)**」洗面台 (トーネットの特徴的な特徴) は、デザイナーの**Andrea Parisio and Giuseppe Pezzano /アンドレア・パリシオとジュゼッペ・ペッツァーノ**によって現代的に変身しています。成形されたセラミック洗面台は、熟練した曲木細工のキャビネット、下の引き出しはワラを編んだ洗練された引き出し前面扉で美しく機能します。

ミニマリストのバスルームは、過度の装飾や要素を排除し、必需品のための余地を残すという点で、現代的で常に勝利を取っている選択肢です。**Acquabella /アクアベッラ (ホール24 | E06)** は、バスルームの効果をより少なくするために、最小限の美的感覚と絹のような感度で際立っている新しい「**Chrea(クレア)**」コレクションを発表しています。カウンタートップの洗面台と浴槽は天然の白いドロテック®石でできており、ウイルス、真菌、バクテリアの増殖を防ぐ毛穴がないため、非常に高いレベルの衛生状態を実現し、衝撃や日常の使用に非常に耐性があります。

Luxor/ルクサー (ホール22 | B25 C24) の「**Arbi (アルビ)**」は、本質とカスタマイズを取り入れた家具であり、この場合、García・Cumini (ガルシア・クミニ) というデュオによって設計されたイントレッチオ (格子編み) 仕上げは、枝編み細工の織りを利用しています。この提案は、ローマの洗面台、**レザーを編んだイントレッチョ仕上げのカーブしたドア**が特徴の、時代を超越したキャビネット (洗面だけでなくどの室内でも適したもの) と、壁全体を長いアズールミラーで装います。

idealstandard /イデアスタンダード (ホール24 | H11 L10) は、**Ludovica + Roberto Palomba (ルドヴィカ+ロベルト・パロンバ)** によって設計された新しいコレクションである「**Calla (カッラ)**」という陶器と「**Joy Neo (ジョイ・ネロ)**」 (混合水栓のシリーズ) の過去の偉大な巨匠の伝統を利用しています。さまざまな時代のデザインの融合で、古典的なパターンから着想し、現代的な要素と組み合わせられています。ビクトリア朝時代と初期のセラミック生産の影響を受けたCallaコレクションは、すっきりとしたシンプルな幾何学的形状と明確な水平線と垂直線を誇り、Joy Neo混合水栓のデザインは、正方形の要素と十字型または線形のハンドルで、より現代的な円筒形の線と融合する古典主義の進化形です。

Elisa Ossino (エリーザ・オッシノ) はまた、**TUBE/チューブ (ホール 24 | F10 F12)** のために新しい**モジュラータオルウォーマー**である「**I Ching (易経)**」のデザインに、フォルムを大幅に簡素化しました。非常に複雑な技術研究の結果、ボリュームと厚さを取り除くことにより、ヒーターは一種のアートワークに変わります。これは、空間内で際立った非常に特徴的な壁のエレメントであり、機能的役割を覆い隠します。1つまたは複数の平行または連続した壁に取り付けられたレールは**I Ching** または変化の書の六十四卦を彷彿とさせるさま

さまざまな線形および形に構成できます。結果は、フォーマルな清潔さと細部への注意に重点を置いた、軽くて最小限の不可欠なタオルウォーマーです。

新しい濃い黒のPVD仕上げで提示された、**FANTINI/ファンティーニ**（ホール22 | C15 C19）の「**Sailing(セーリング)**」水栓コレクション、この重要なプロジェクトも刺激的です。アメリカのデザインスタジオ**George Yabu and Glenn Pushelberg**（**ジョージ・ヤブとグレン・プッセルバーグ**）によってデザインされ、ハンドルの形状（そして細い出口）は、船をつなぐために不可欠な、すべての船に見られる航海装置であるクリートの古典的な形状を叙情的に再解釈したものです。

機能性とすっきりとした形状も**Vismaravetro/ヴィズマラヴェトロ**（ホール22 | B15 C14 C16）に共通の流れです。「**WALK-IN (ウォークイン) PKT/SK-IN**」シャワーエンクロージャーは、合わせガラスとフレームで囲まれています。エレガントなアルミニウムで縁取られた固定パネルはドアがないため、これまでにない解放感あるシャワー体験をもたらします。「**Supersintesi (スーパーシンテジ)**」は純粋で厳密な高機能デザインを採用しており、非常にお手入れが簡単です。Vismaravetroの哲学に沿って、これらの製品はパーソナライズの要求に応え、オーダーメイドのプロジェクトやあらゆるプロジェクト物件に簡単に適応します。

新しいバスルームは**エモーショナルな要素**を失っていません。パーソナルケア、健康、リラクゼーションに専念するスペースとして発展しています。**Dornbracht/ドンブラハ**（ホール24 | F06 F08）の製品がそのことを思い出させてくれます。このシャワーヘッドは、春の小雨（または好みに応じて激しい水流）のように、ユニークでありながら非常に自然なシャワー体験を実現する新しいレインシャワーヘッドを備えています。ドンブラハの雨のような水流の秘密は、圧力がかからず、羽のように軽く、ほとんど無重力で落下するのです。流れには2つのタイプがあり、シャワーヘッドからのコンパクトで強力なジェットが髪の洗浄とすすぎを容易にし、レインシャワーがリラックスした体験をもたらします。水は繊細に体を包み込みますが、顔に水が当たりません。これらの新しいシャワーヘッドは「Alexa」または「Philips Hue」を介した音声制御の統合照明でも利用できます。

最後に、バスルームは、過去数年間のすべての屋内家具と同様に、ついに**アウトドア**にも設置されるようになりました。Davide Vercelli（**ダビデ・バルチェッリ**）によって設計された**Fima Carlo Frattini/フィーマ・カルロ・フラッティーニ**（ホール24 | C10 C12）の「**Marmorea (マルモレア)**」は、アウトドア空間のオープンエアでの健やかなあり方を念頭に置いて設計されました。この新しいシャワーコラムは、洗練された素材とフォーマルな純度の観点からエレガントなアウトドア製品を作りたいという願望から生まれました。抵抗力や使いやすさを損なうことなく、美的価値を強調するインパクトのあるデザインとビジュアルモデルです。

これまで見てきたように、カスタマイズはすべてのバスルーム企業にとって勝利の戦略の1つです。シャワー、洗面台、アクセサリは、パーソナライズへの一般的な傾向を裏付けています。素材の面では、**新しいセラミックとシンセティックな素材**が高い評価を得ていま



す。また多様な色の大理石と木が温かさと場所、有機性、自然の感覚を与えます。繊細な色合いがこれらの組み合わせの重要な要素で、白は常にクラシックです。ジャイプールレッドやカレーイエロー、ビケット、テラコッタなどの新色が登場しました。プレーンまたはつや消しの金、銅、真ちゅうの水栓と調和します、深海の底力を思わせる、とろみのある一緑、濃い青も斬新です。ダークグレーとチャコールブラックの人気は水栓だけでなく、床材や壁材、トイレへも採用されています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it